

全般季節予報支援資料 1か月予報

2024年11月21日

予報期間：11月23日～12月22日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項



出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。

東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

北・東日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

全般1か月予報

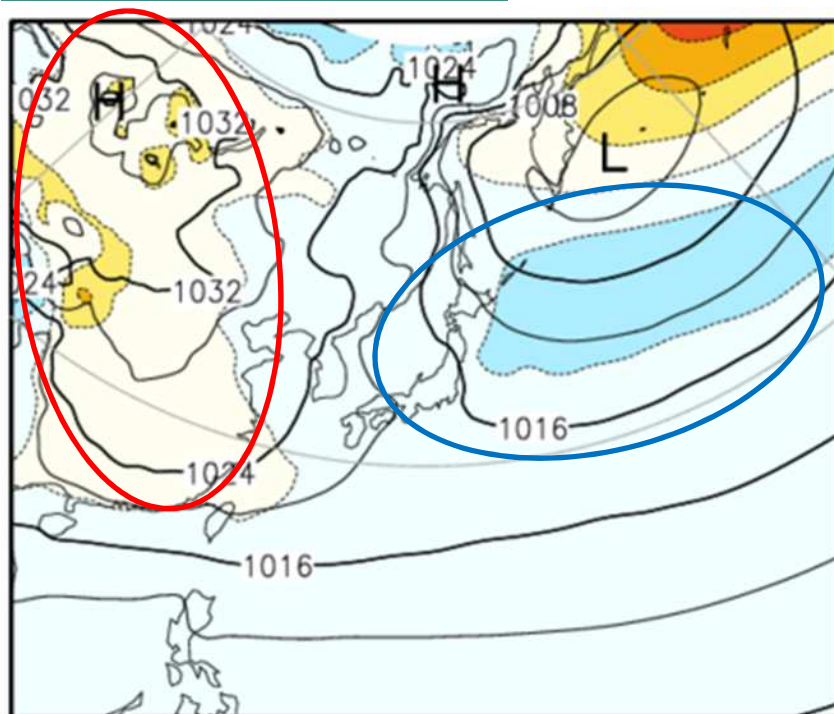
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	20:40:40	20:40:40	40:30:30	40:30:30
	太平洋側		30:30:40	30:40:30	
東日本	日本海側	20:40:40	20:40:40	40:30:30	30:40:30
	太平洋側		40:30:30	30:30:40	
西日本	日本海側	30:30:40	30:30:40	40:30:30	
	太平洋側		40:30:30	30:30:40	
沖縄・奄美		30:30:40	30:40:30	30:40:30	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	20:30:50	20:40:40	30:30:40
東日本	20:40:40	20:40:40	30:30:40
西日本	20:40:40	30:30:40	30:40:30
沖縄・奄美	20:30:50	30:30:40	30:40:30

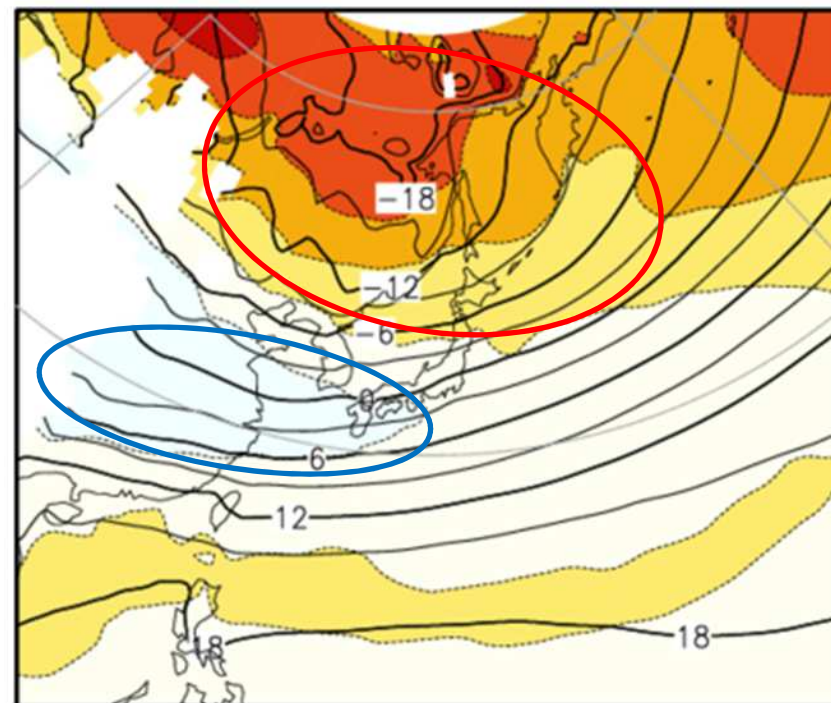
全般予報のポイント

- ・向こう1か月の気温は、期間の前半を中心に寒気の影響を受けにくいいため、北・東日本では平年並か高いでしょう。
- ・向こう1か月の降水量は、低気圧や西高東低の気圧配置の影響を受けやすいため、北・東日本日本海側では平年並か多いでしょう。

海面気圧(1か月)



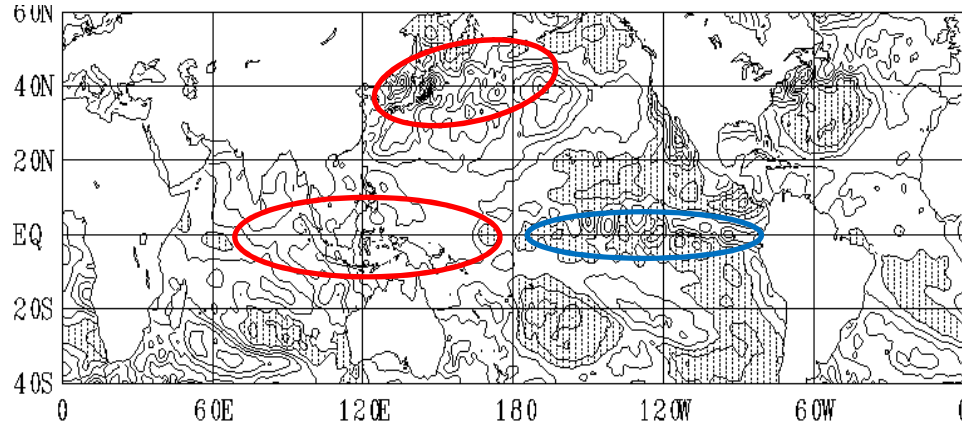
上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の海面気圧(左図)は、日本付近から日本のはるか東で気圧が低く、特に日本の東で気圧が低いため、低気圧の影響を受けやすい時期があるでしょう。日本の東で低気圧が発達し、西高東低の気圧配置により日本海側を中心に寒気の影響を受けやすい時期があるでしょう。

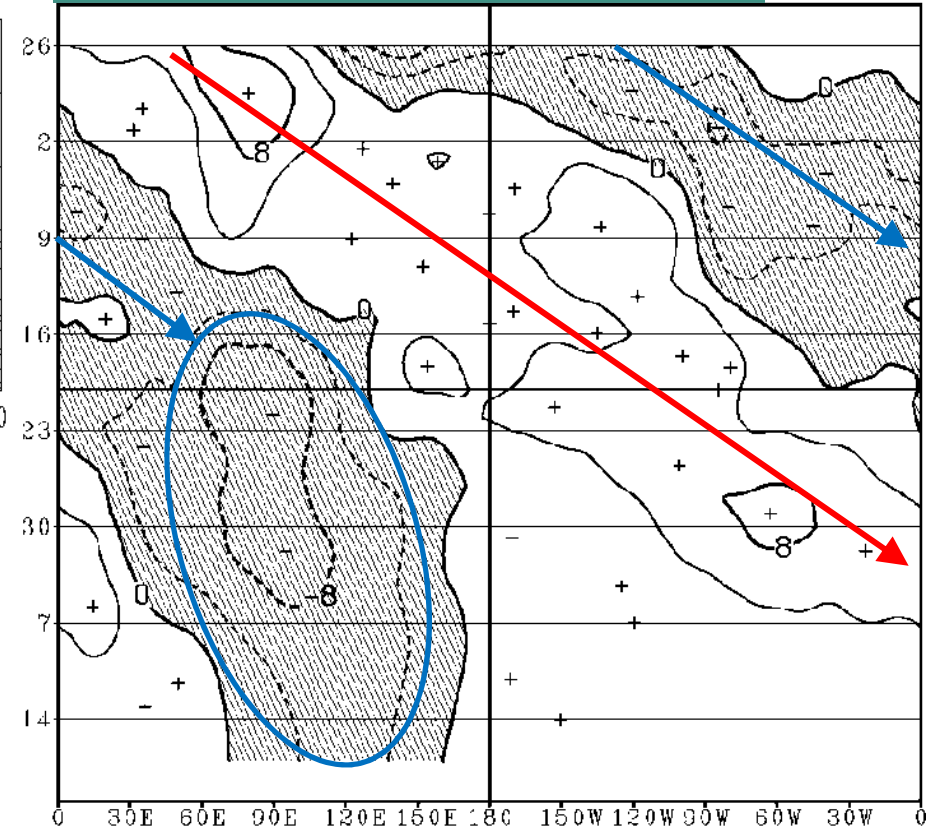
上空約1500mの気温(右図)は、北日本を中心に平年より高く、寒気の影響を受けにくい時期があるでしょう。一方、西日本を中心に平年からの隔たりは小さいですが平年より低く、寒気の影響を受けやすい時期があるでしょう。

SST偏差



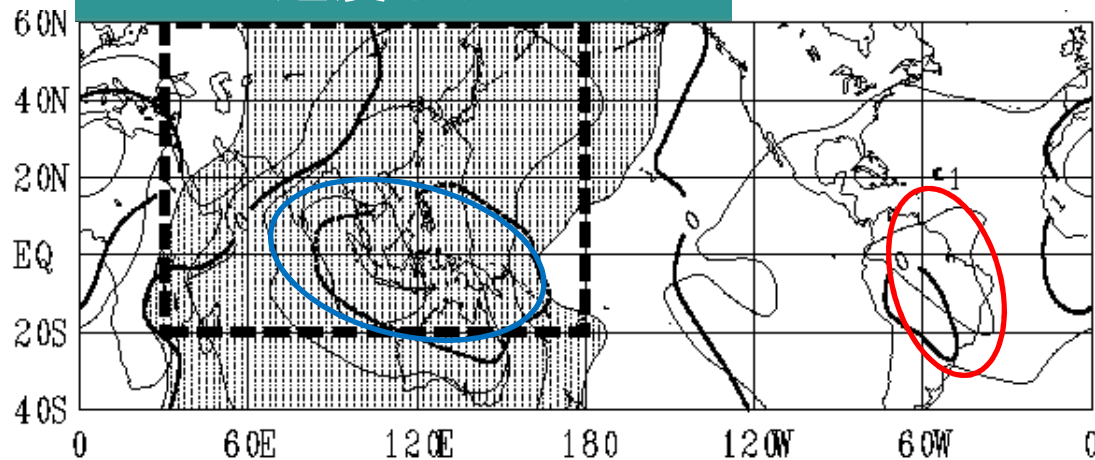
熱帯域では、インド洋から日付変更線付近にかけて正偏差、太平洋赤道域中部から東部にかけて負偏差。日本周辺海域や日本の東で正偏差。

200hPa速度ポテンシャル偏差



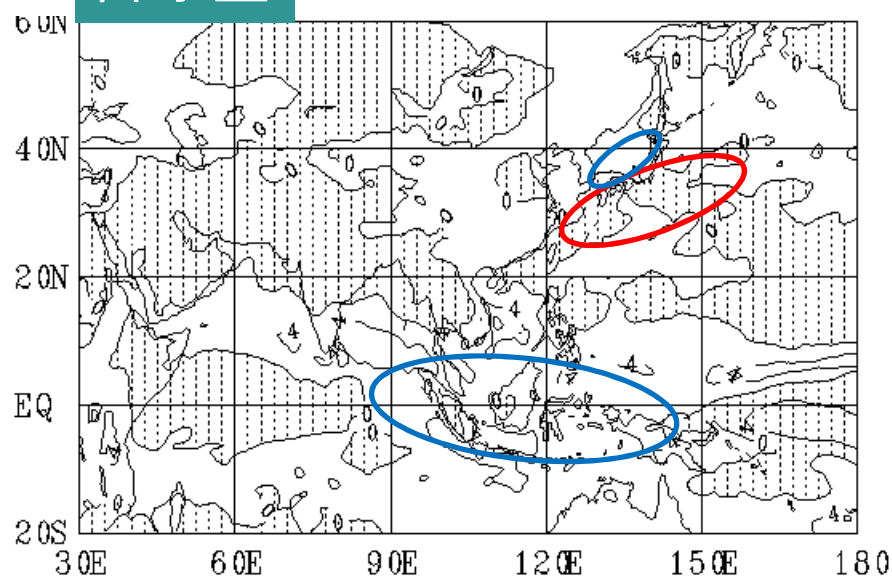
実況でアフリカ大陸からインド洋付近にある赤道季節内変動(MJO)に伴う対流活動活発域は、予測ではインド洋をゆっくり東進、期間後半にはインド洋東部からインドネシア付近が活発となる。モデルは活発域がインド洋で停滞しやすい誤差傾向があり、予報後半にはその誤差傾向の循環場への影響への留意が必要。

200hPa速度ポテンシャル



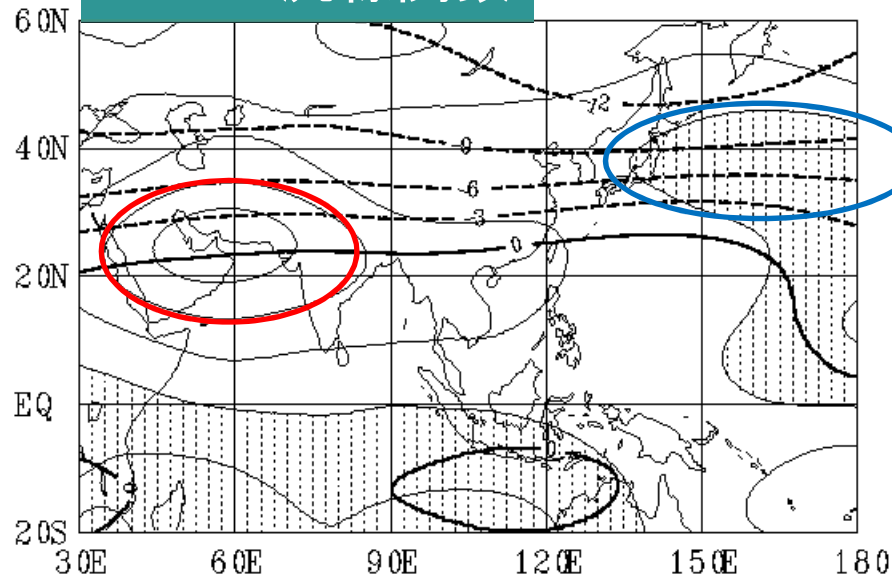
インド洋からインドネシア付近で上層発散偏差。
アメリカ大陸付近で上層収束偏差。

降水量



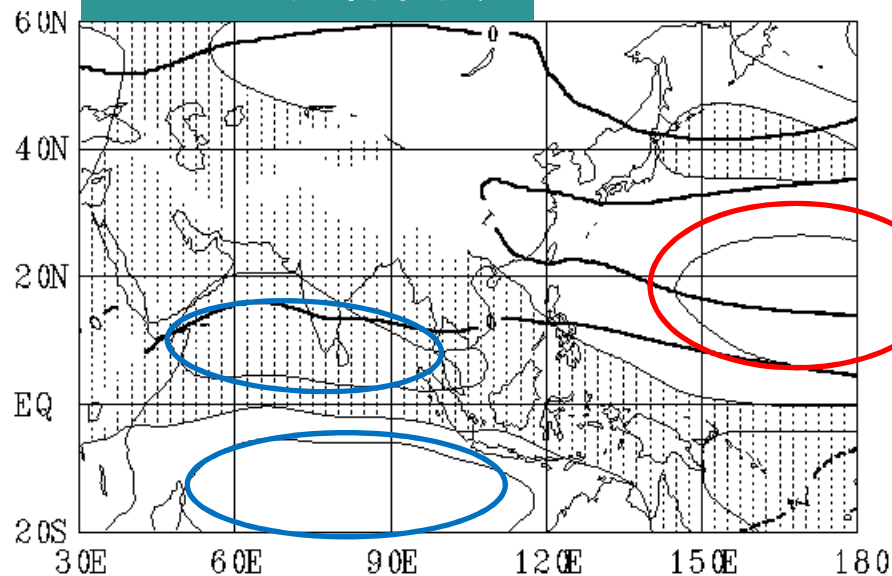
インド洋東部からインドネシア付近にかけて多雨偏差。
日本付近は太平洋側を中心に少雨偏差、日本海側を中心に多雨偏差。

200hPa流線関数



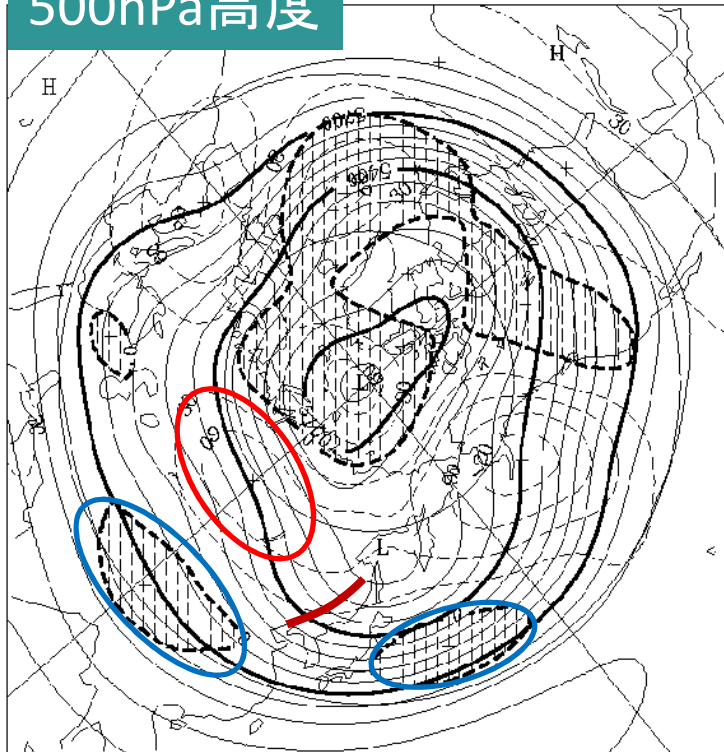
中緯度帯には波列パターンが見られ、日本付近から日本の東にかけて低気圧性循環偏差。波列パターンの上流にある中東付近の高気圧性循環偏差には、インド洋付近の対流活発の影響もあると考えられる。また、この対流活発の予測に不確実性があることから、日本付近の寒気の流入の程度をやや強めて考える。

850hPa流線関数



インド洋付近の対流活発の影響でインド洋では南北対の低気圧性循環偏差。日本の南東で高気圧性循環偏差。

500hPa高度

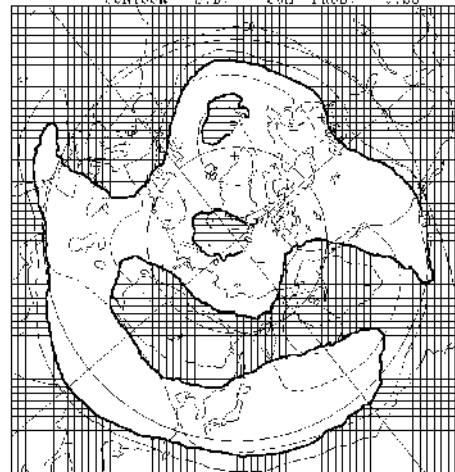
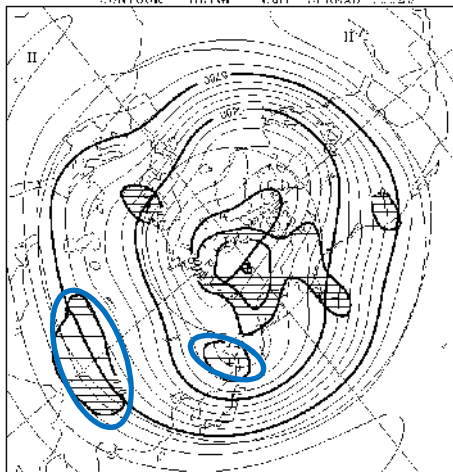


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROJ. OF H. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.25

CONTOUR S.D.: 30m PROB: 0.25

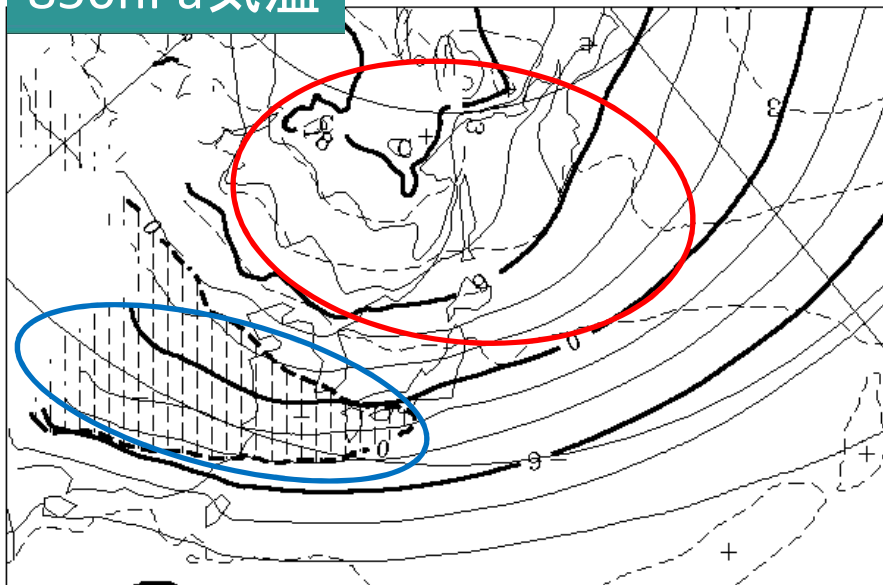


北半球では波列パターンが明瞭。東シベリアから中国東北
区付近はトラフで日本付近は
北日本中心の西谷。日本の東
は負偏差となっている。

日本付近は正の高偏差確率
50%以上の領域には覆われな
くなっている。

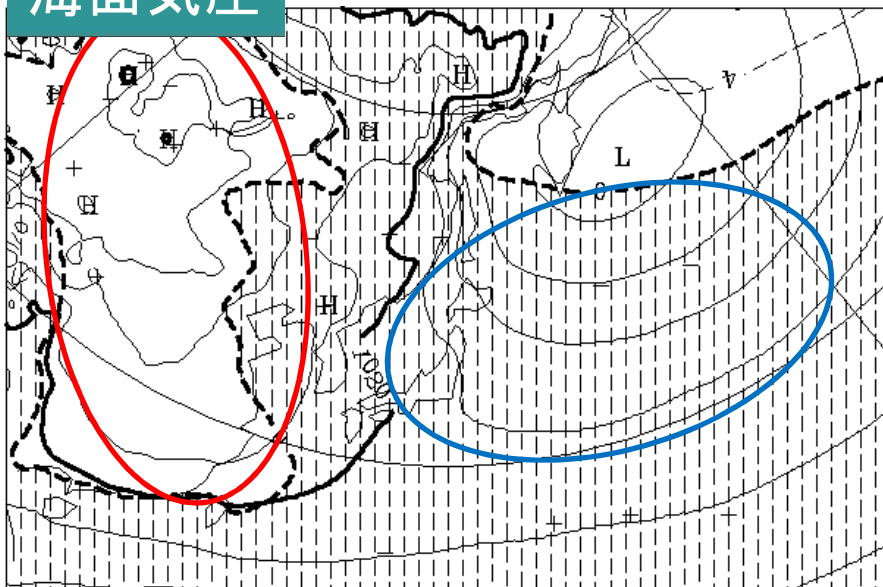
オホーツク海付近や中国大陸
付近にスプレッドの大きい領域
が予想され、中緯度帯の波列
パターンなどの予測に不確実
性がある。

850hPa気温



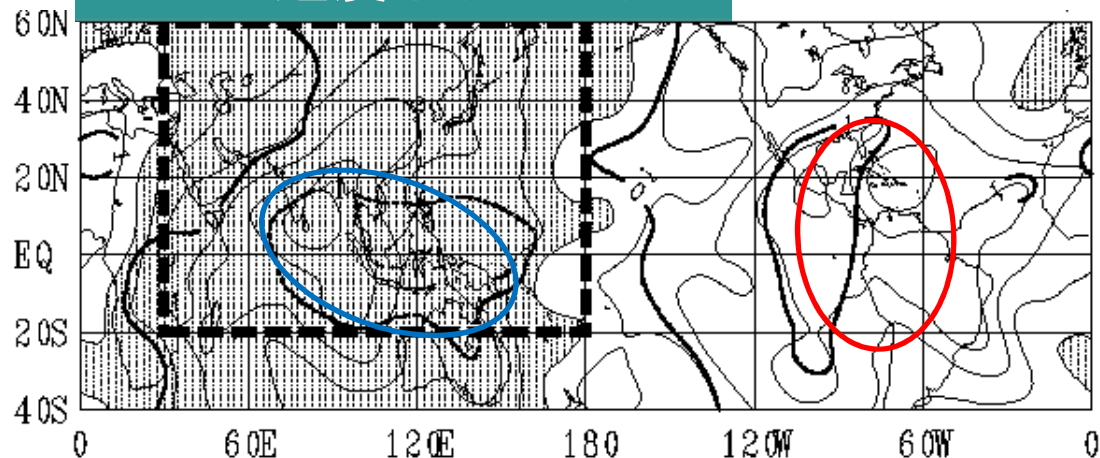
北日本を中心に正偏差で、寒気の影響を受けにくい時期がある。一方、西日本に弱い負偏差域がかかり、寒気の影響を受ける時期もある。

海面気圧



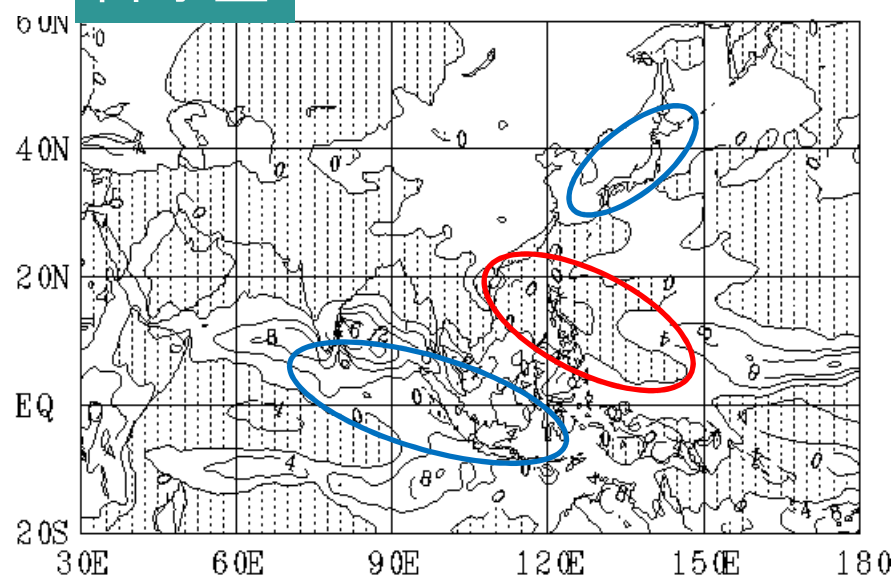
日本付近から日本のはるか東で負偏差で、日本の東で負偏差が大きい。低気圧の影響を受ける時期を見込む。
大陸の高気圧は大陸内で正偏差。日本の東で低気圧が発達し、西高東低の気圧配置により日本海側を中心に寒気の影響を受けやすい。

200hPa速度ポテンシャル



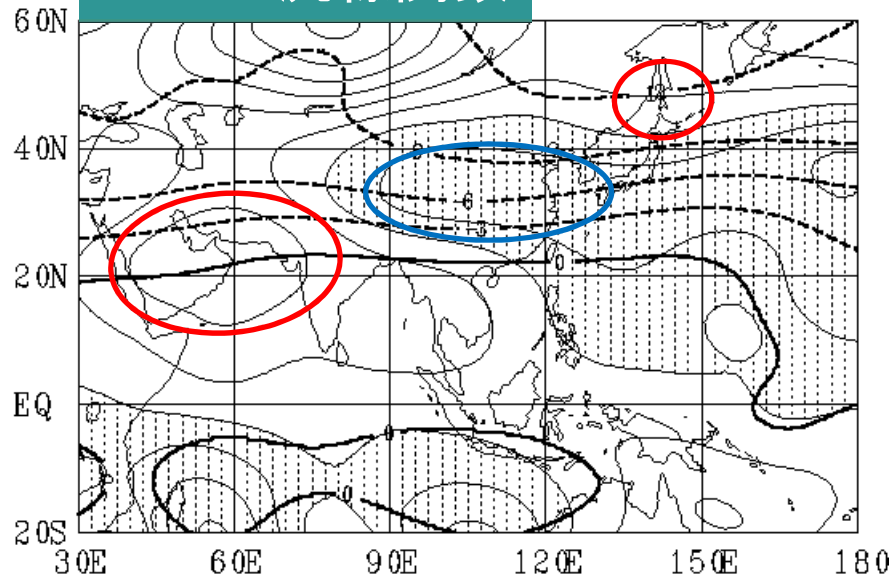
インド洋からインドネシア付近で上層発散偏差。
太平洋東部からアメリカ大陸付近で上層収束偏差。

降水量



インド洋東部からインドネシア付近にかけて多雨偏差。
フィリピン付近で少雨偏差。
日本付近は多雨偏差。

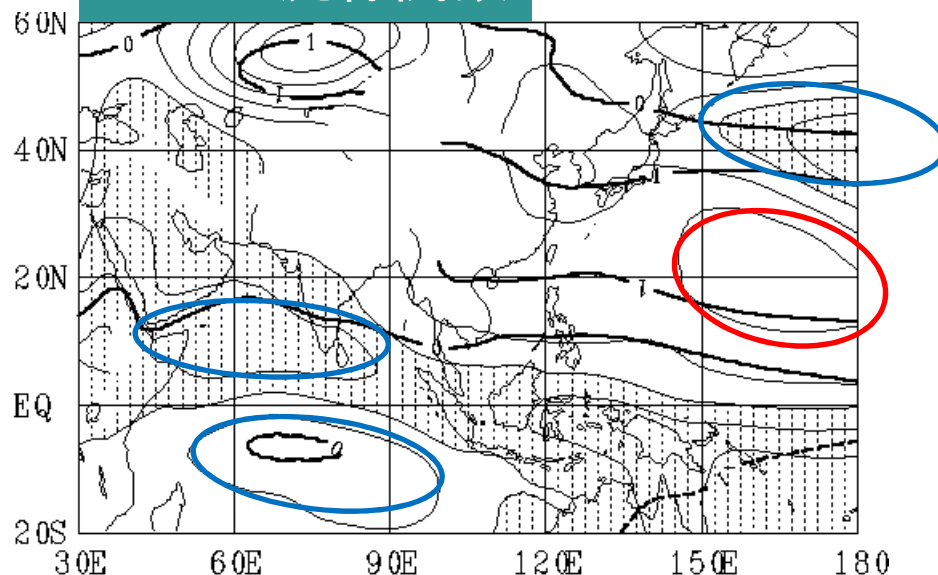
200hPa流線関数



中緯度帯には波列パターンが見られ、華北から東シナ海付近に低気圧性循環偏差。サハリン付近に高気圧性循環偏差。

波列パターンの上流にある中東付近の高気圧性循環偏差には、インド洋付近の対流活発の影響も考えられる。

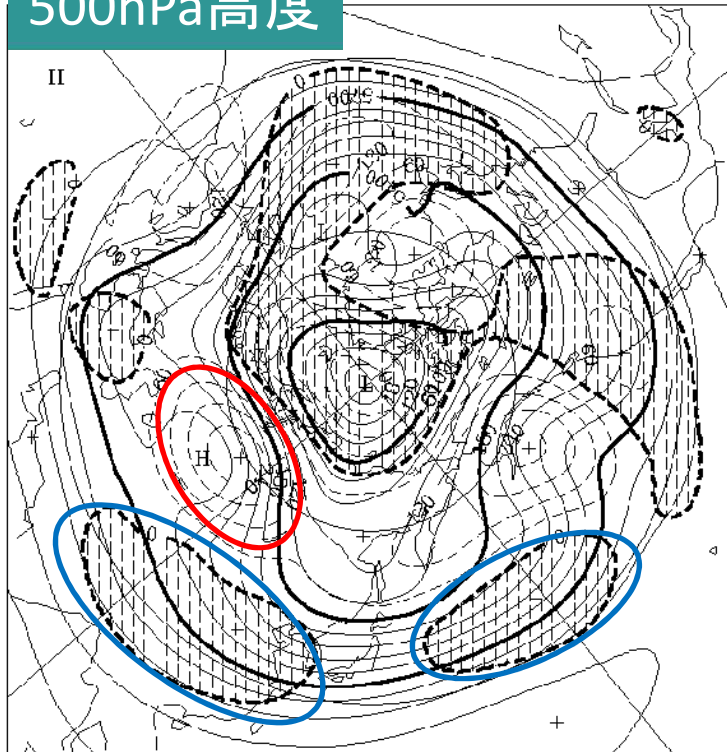
850hPa流線関数



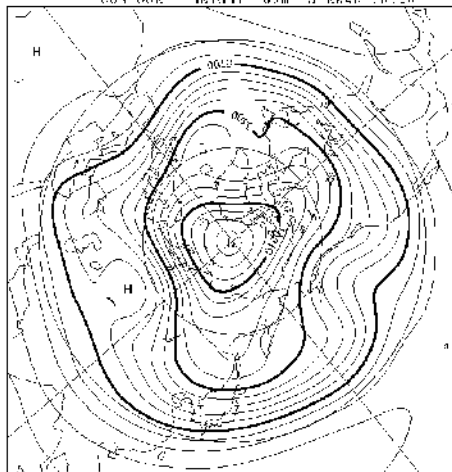
インド洋付近の対流活発の影響でインド洋付近では南北対の低気圧性循環偏差。

日本の南東で高気圧性循環偏差。日本の東から日本のはるか東では低気圧性循環偏差で、低気圧の発達によるもの。

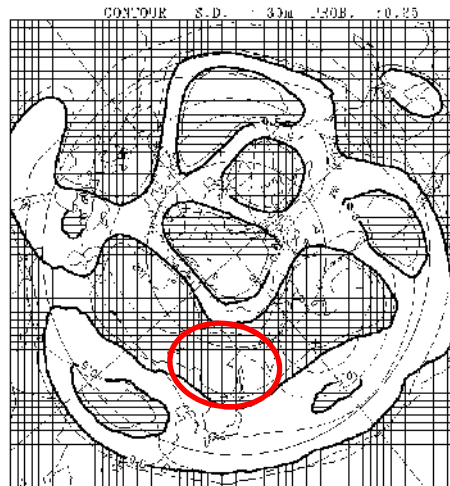
500hPa高度



500hPa SPREAD AND HEIGHT
CONTOUR HEIGHT: 63m SPREAD: 0.20

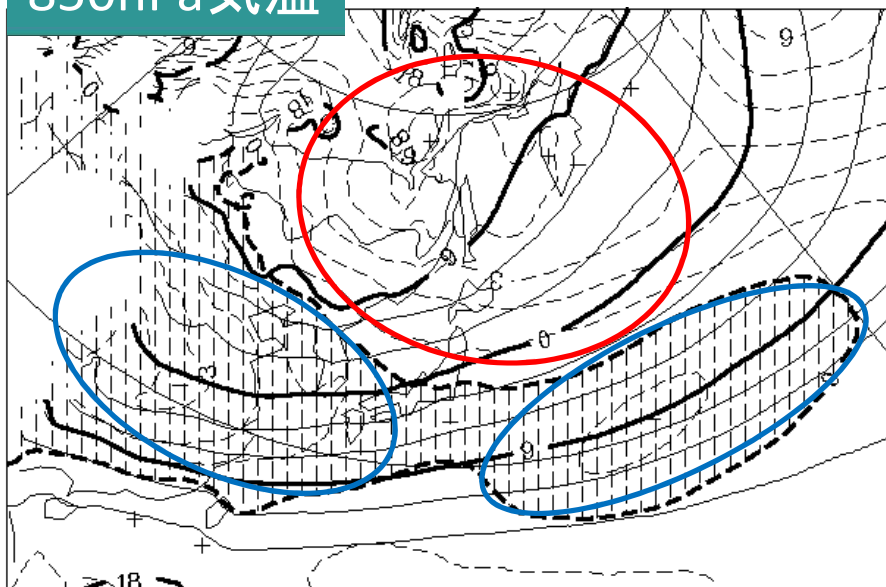


PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.



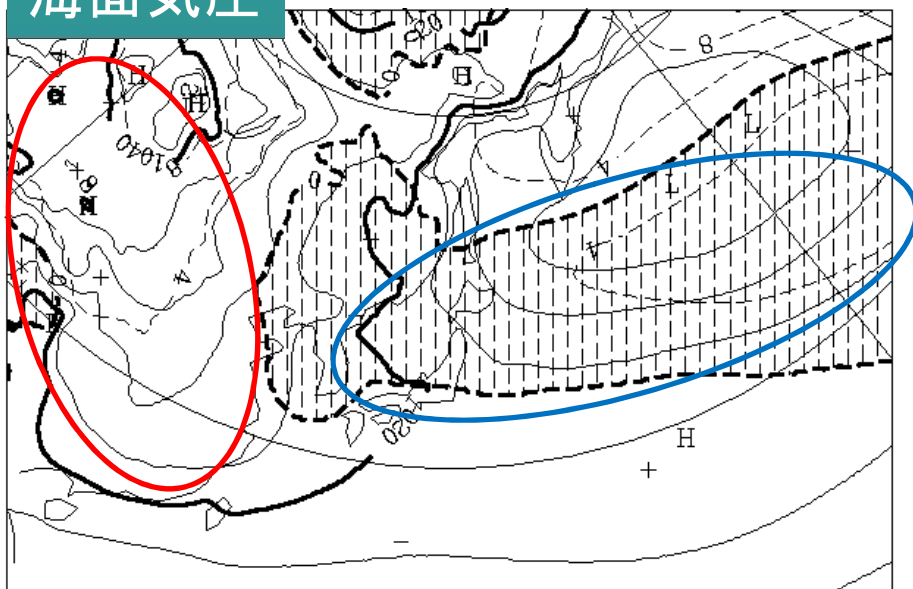
北半球では波列パターンが明瞭。日本の東と、中国大陸から朝鮮半島付近は負偏差で、日本付近は西谷。
日本付近は偏差は小さい。
北海道付近は正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

850hPa気温



北日本を中心に正偏差に覆われる。
東シナ海や日本の東は負偏差だが、東・西日本や沖縄・奄美は偏差が小さい。

海面気圧



アリューシャン低気圧の南西から南側にあたる、日本付近から日本のはるか東にかけて負偏差。一方、大陸の高気圧は大陸内で正偏差。
日本付近は低気圧の影響を受けやすい時期がある。また、日本付近を低気圧が通過後は西高東低の気圧配置となり、一時的に寒気の影響を受けやすい。

想定される天候

北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。
北・東日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

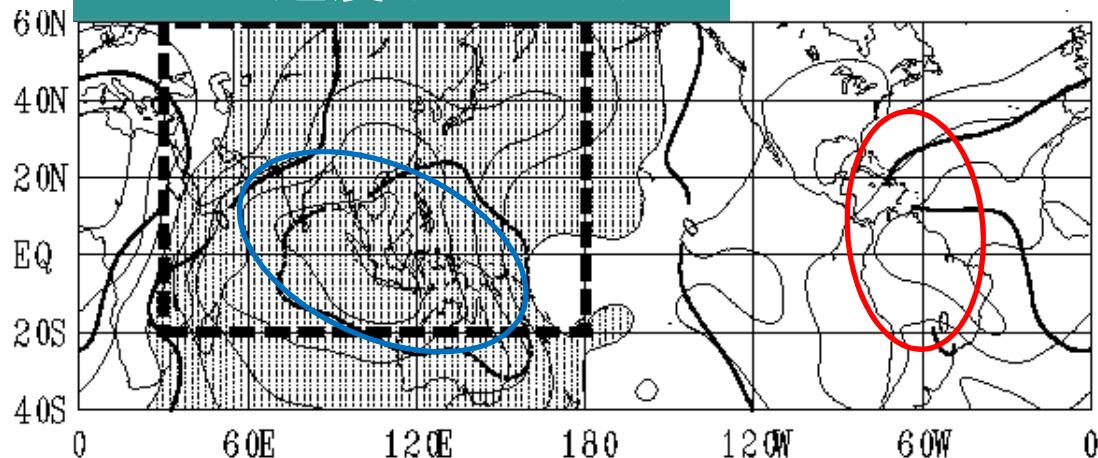
<気温>

・期間の前半は寒気の影響を受ける時期もあるが、全般に北・東・西日本では寒気の影響を受けにくく、また、沖縄・奄美では暖かい空気に覆われやすいため、北日本と沖縄・奄美では高温。東・西日本では高温傾向。

<天候>

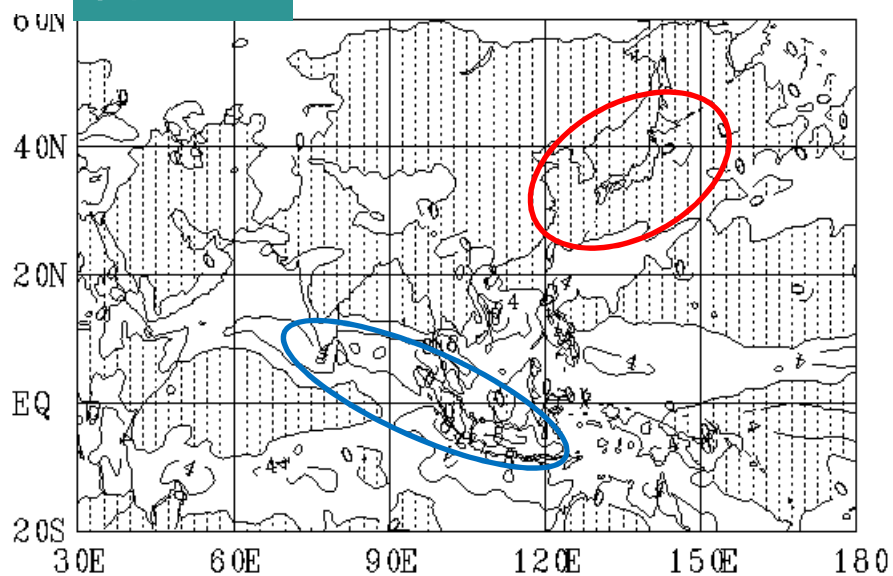
・北・東・西日本では、低気圧の影響で多雨傾向やや寡照。
・沖縄・奄美では、並雨並照。

200hPa速度ポテンシャル



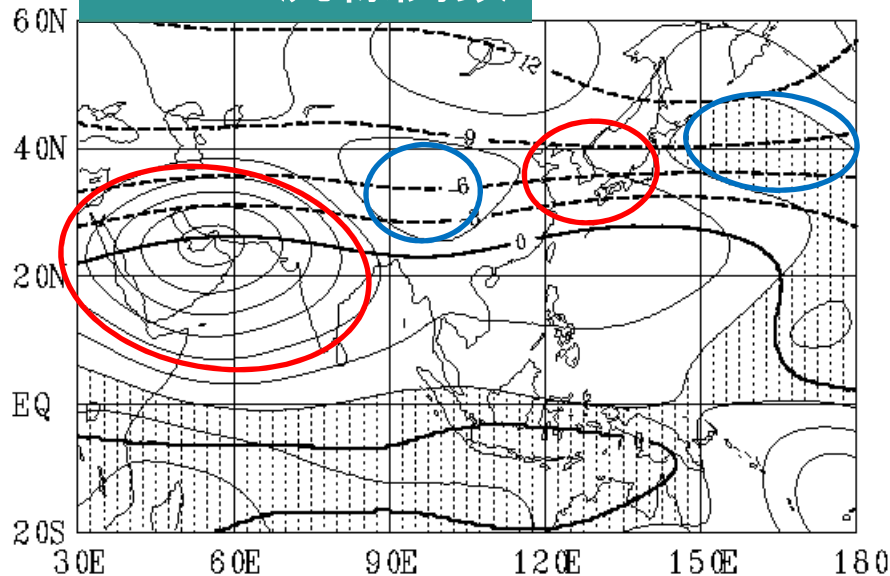
インド洋からインドネシア付近で上層発散偏差。
アメリカ大陸付近で上層収束偏差。

降水量



インド洋東部からインドネシア付近にかけて多雨偏差。
日本付近は少雨偏差。

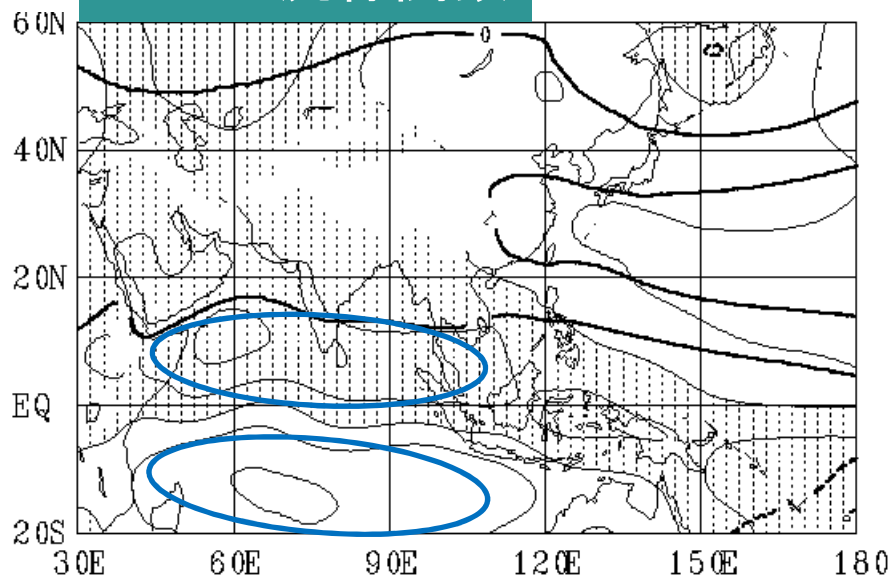
200hPa流線関数



中緯度帯には波列パターンが見られ、朝鮮半島付近に高気圧性循環偏差。日本の東に低気圧性循環偏差。

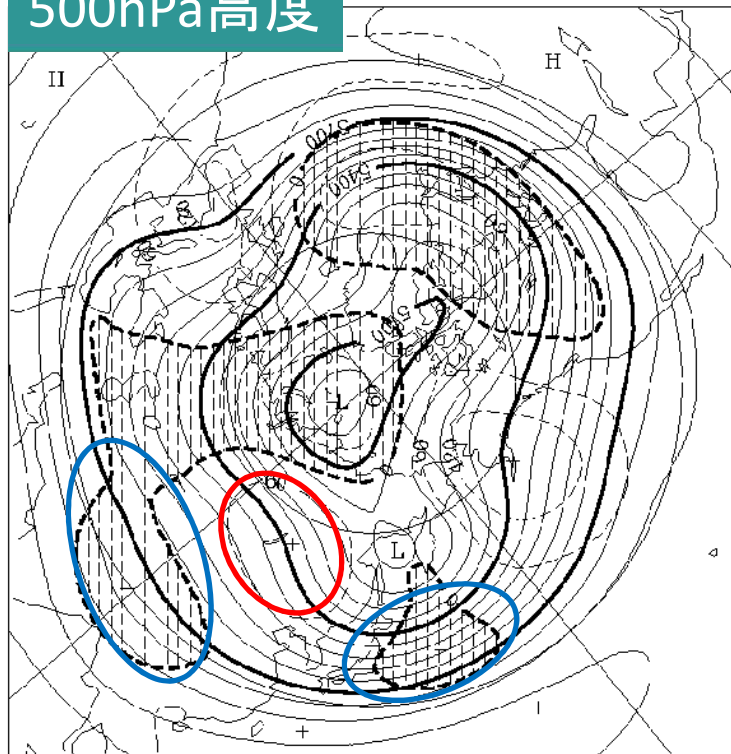
波列パターンの上流にある中東付近の高気圧性循環偏差には、インド洋付近の対流活発の影響もあると考えられ、対流活動に不確実性があることから、これらの波列パターンには不確実性がある。

850hPa流線関数



インド洋付近の対流活発の影響でインド洋付近では南北対の低気圧性循環偏差。

500hPa高度

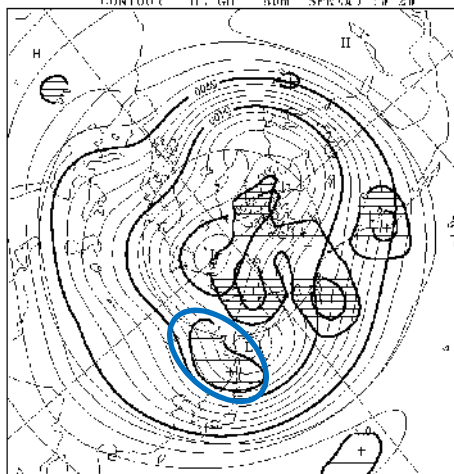


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. AKOMA.Y AND S.D.

CONTOUR HEIGHT 80m SPREAD 10 20

CONTOUR S.D. 3000 2200 10 20

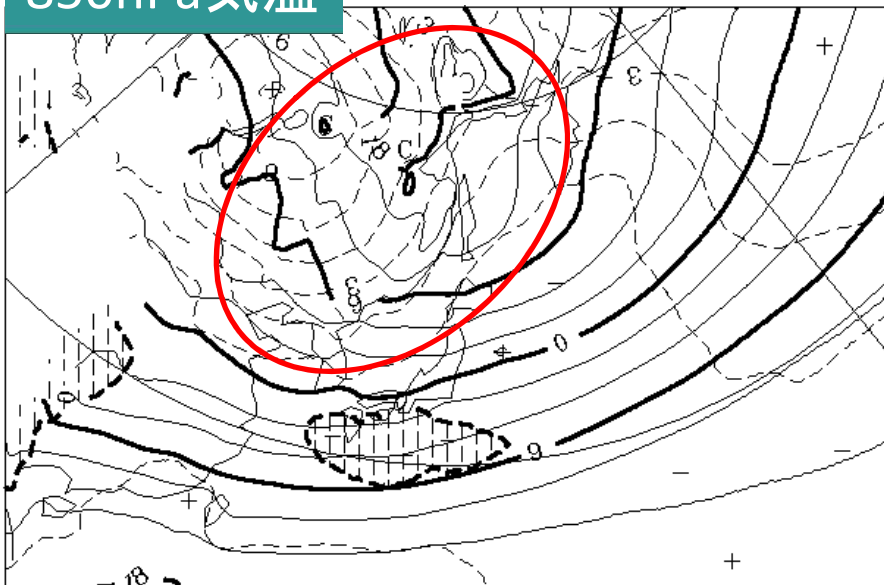


北半球では波列パターンが明瞭で、バイカル湖付近は正偏差、中国大陸付近や日本の東は負偏差。

日本付近は正の高偏差確率50%以上の領域には覆われなくなる。

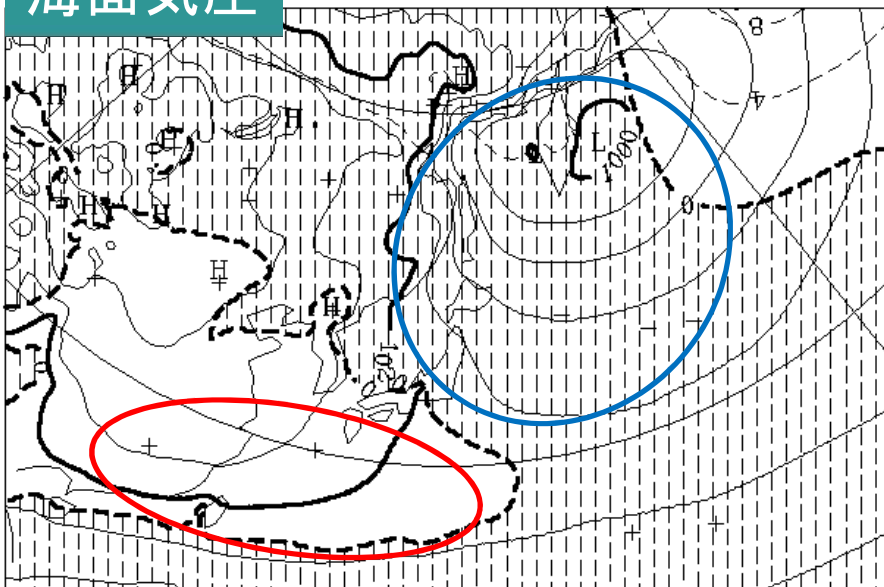
オホーツク海付近などにスプレッドの大きい領域が予想され、中緯度帯の波列パターンなどの予測に不確実性がある。

850hPa気温



北日本中心に正偏差に覆われる。

海面気圧



北日本付近から日本のはるか東で負偏差。東シナ海から日本の南は正偏差だが偏差は小さい。

アリューシャン低気圧は日本の東で発達し、西高東低の気圧配置となり一時的に寒気の影響を受けやすい。
また、東・西日本太平洋側を中心に低気圧の影響は小さい。

想定される天候

北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。
北・東日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

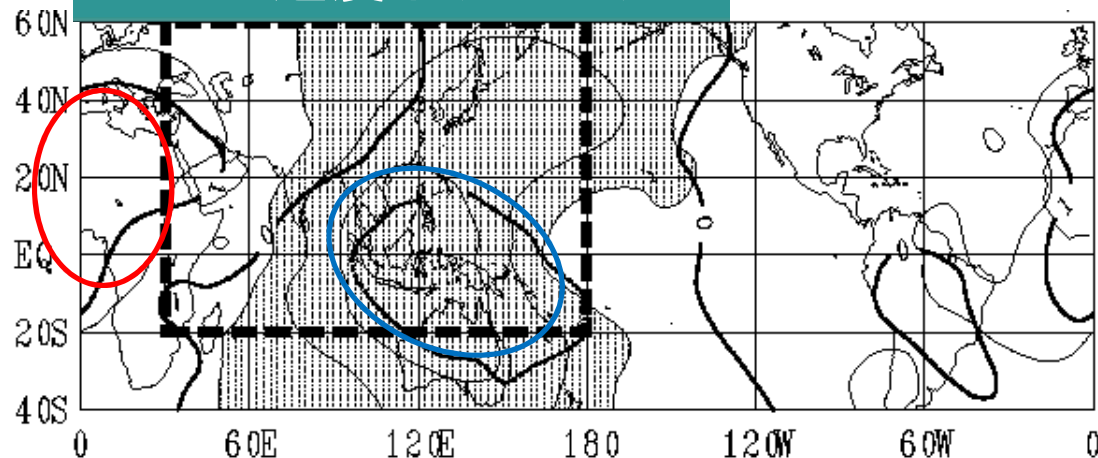
<気温>

・北・東日本では、寒気の影響を受ける時期もあるが、全般に寒気の影響を受けにくいいため、高温傾向。西日本と沖縄・奄美では、やや高温。

<天候>

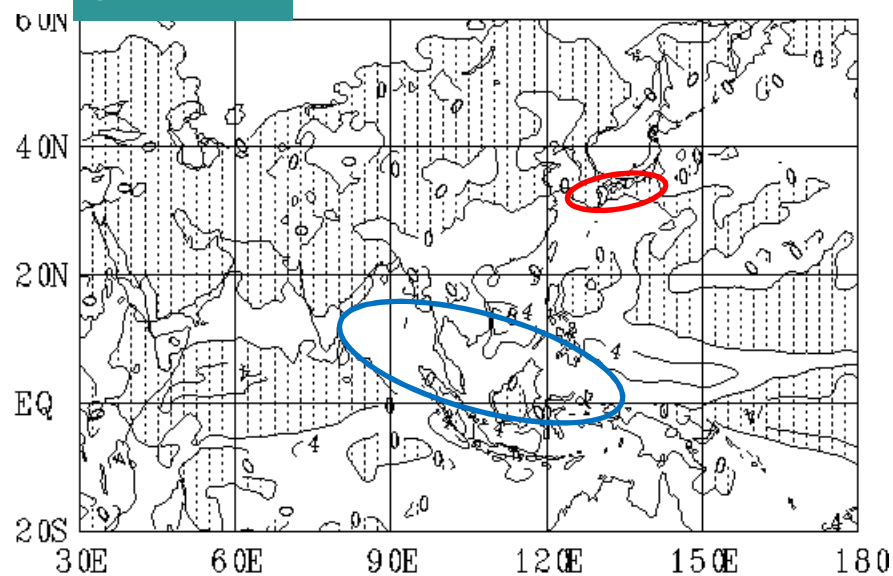
・北・東日本日本海側では、西高東低の気圧配置の影響が一時的のため、並雨やや多照。
・西日本日本海側と沖縄・奄美では、並雨並照。
・北日本太平洋側では、低気圧の影響を受けにくいいため、並雨やや多照。東・西日本太平洋側では、少雨傾向やや多照。

200hPa速度ポテンシャル



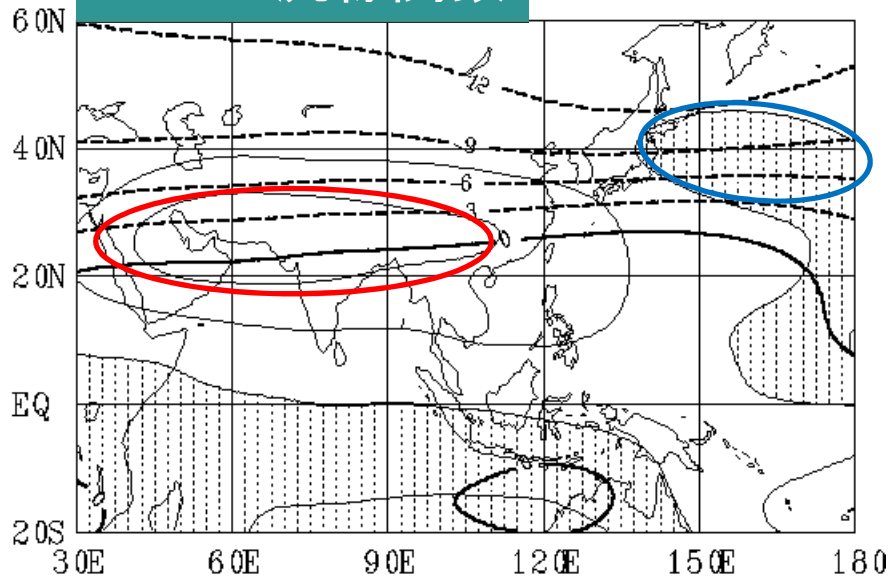
インド洋東部からインドネシア付近で上層発散偏差。
アフリカ大陸付近で上層収束偏差。

降水量



インド洋東部からインドネシア付近にかけて多雨偏差。
日本付近は東・西日本太平洋側を中心に少雨偏差。

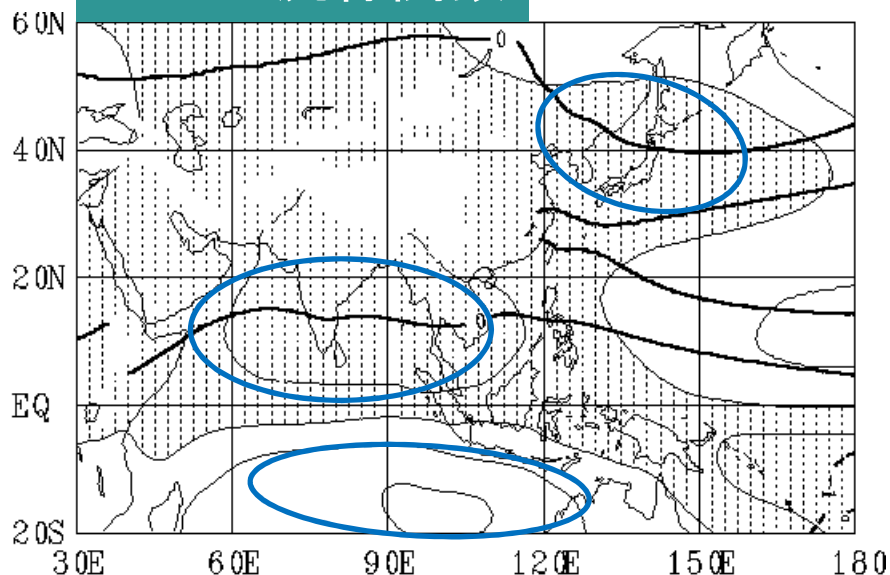
200hPa流線関数



中緯度帯には波列パターンが見られ、日本付近から東に低気圧性循環偏差。

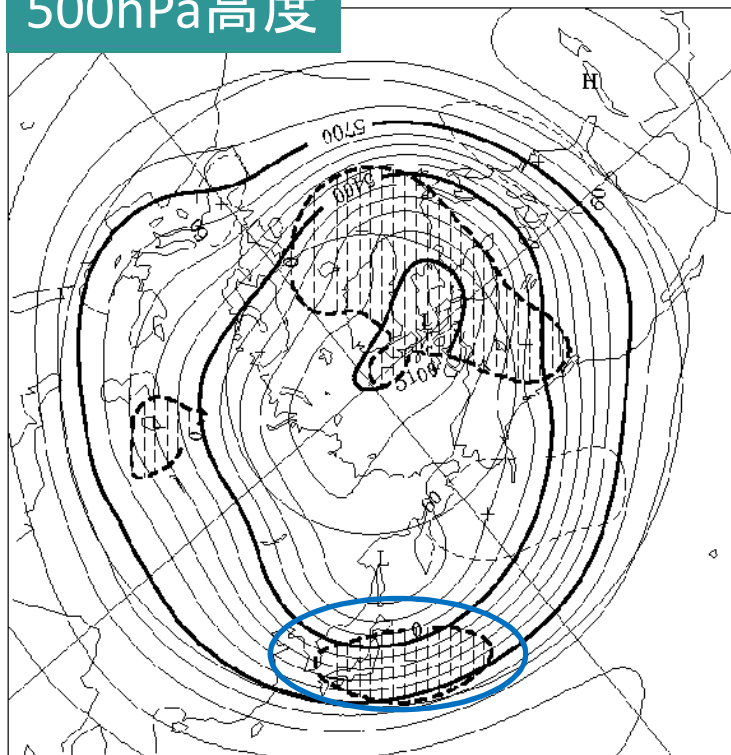
波列パターンの上流にある中東から中国大陸付近の高気圧性循環偏差には、インド洋付近の対流活発の影響もあると考えられ、対流活動に不確実性があることから、これらの波列パターンには不確実性がある。

850hPa流線関数



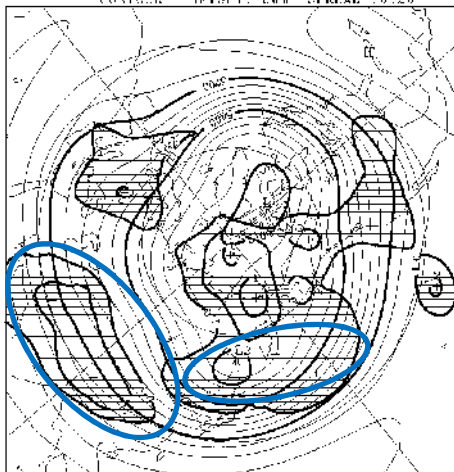
インド洋付近の対流活発の影響でインド洋付近では南北対の低気圧性循環偏差。
日本付近で低気圧性循環偏差。

500hPa高度



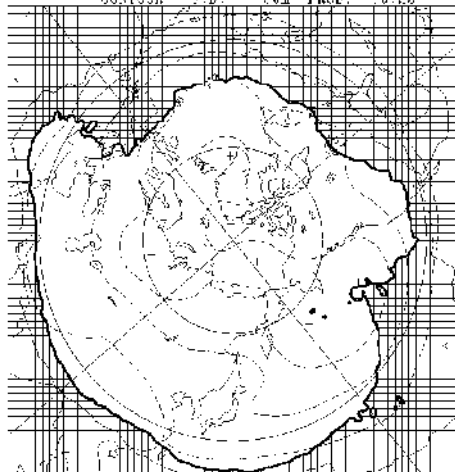
500hPa SPREAD AND HEIGHT

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20



PROB. OF T. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.25

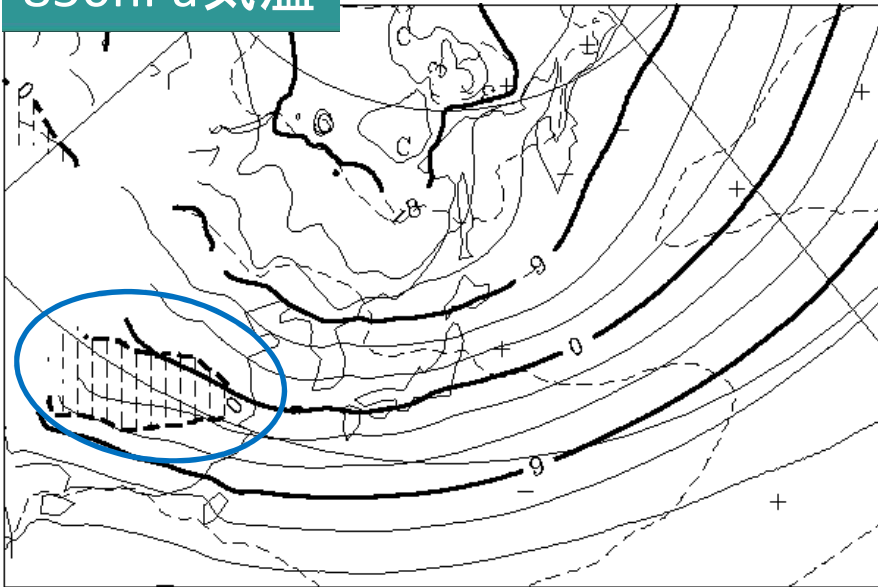


北半球では波列パターンが明瞭。日本付近は負偏差だが偏差は小さい。

日本付近は正の高偏差確率50%以上の領域には覆われなくなる。

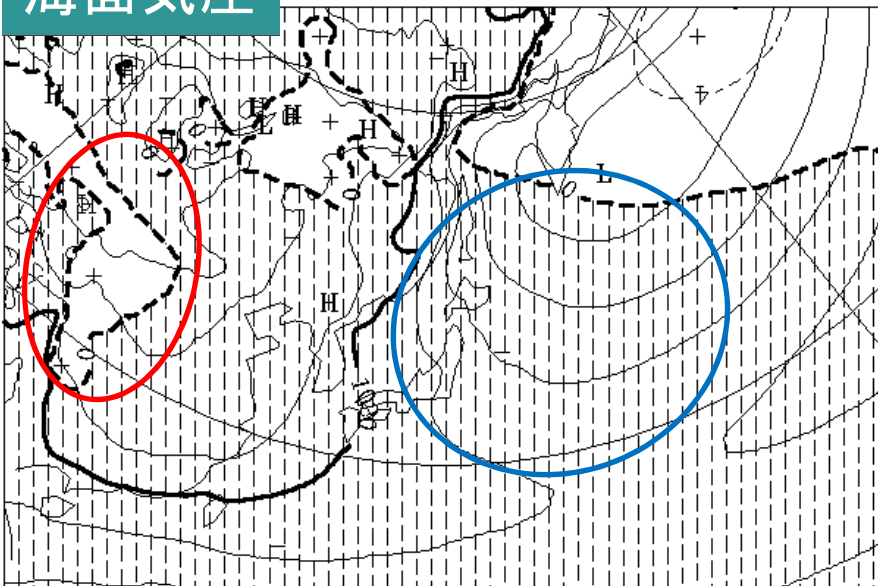
インド洋付近の熱帯対流活動の予測の不確実性もあり、オホーツク海付近や大陸などでスプレッドの大きい領域が予想され、中緯度帯の波列パターンなどの予測に不確実性がある。

850hPa気温



日本付近は全国的に偏差は小さい。

海面気圧



アリューシャン低気圧の南西側で負偏差で、日本付近も負偏差。大陸の高気圧は大陸内で正偏差。

低気圧の発達により西高東低の気圧配置となり、一時的に寒気の影響を受けやすい。

想定される天候

北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。
北・東日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

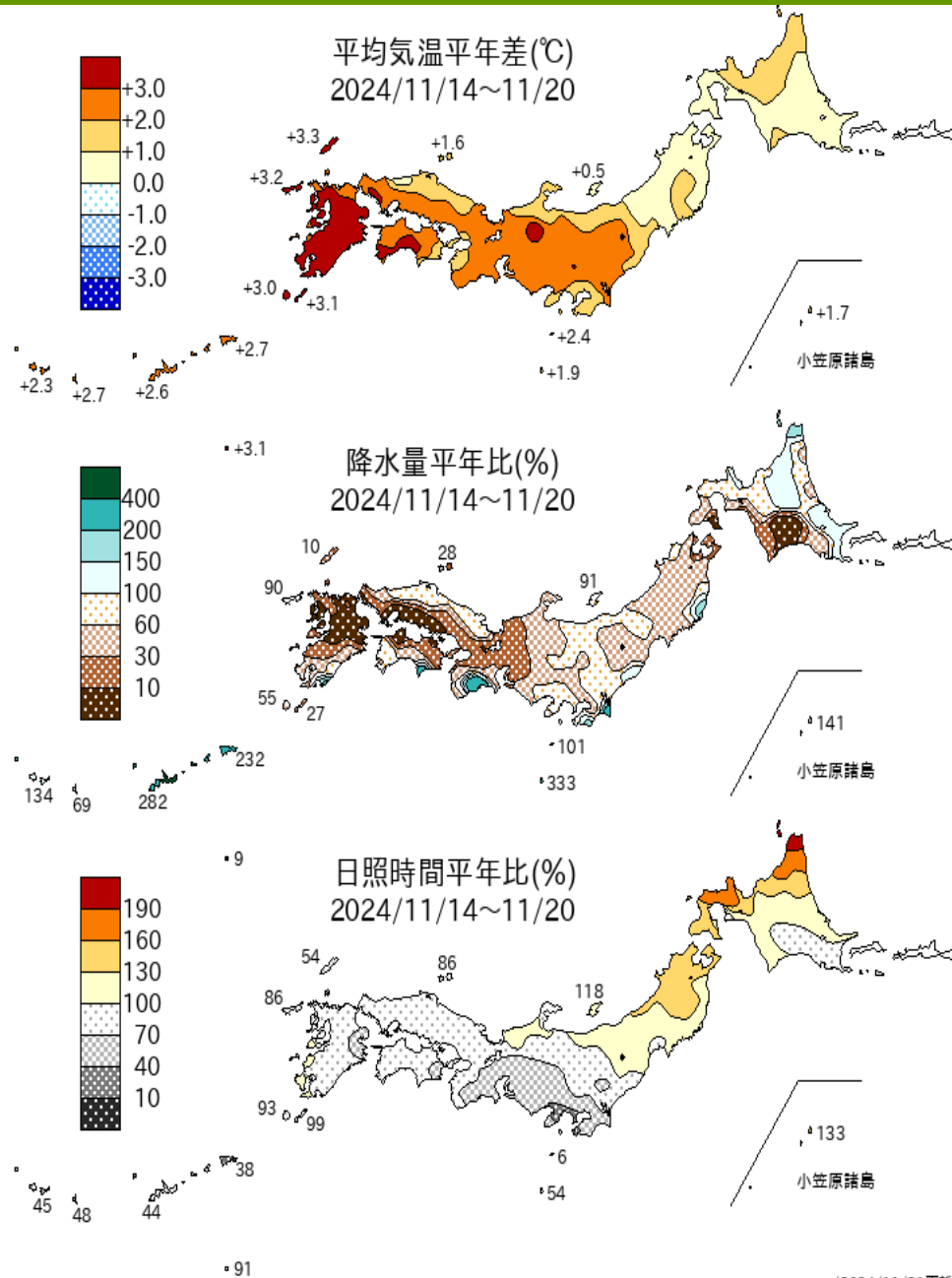
<気温>

- ・全般に寒気の影響を受けにくいですが、寒気の影響を受ける時期もあるため、北・東日本では、やや高温。
- ・西日本と沖縄・奄美ではほぼ平年並。

<天候>

- ・北・東日本日本海側では、西高東低の気圧配置の影響を受けやすいため、やや多雨やや寡照。沖縄・奄美では並雨やや寡照。
- ・北日本太平洋側と西日本日本海側では、並雨並照。
- ・東・西日本太平洋側では、低気圧の影響を受けにくいいためやや少雨やや多照。

最近1週間の天候経過



最近1週間(11月14日~11月20日)は、日本付近は天気が周期的に変わりましたが、北日本を中心に高気圧に覆われやすく、晴れた所が多くなりました。一方、一時的に西高東低の気圧配置となった影響で18日に東北地方で大雪となった所がありました。また、高気圧が北日本に偏って覆ったため、高気圧の縁にあたる東・西日本では、湿った空気の影響で曇りの日が多くなりました。沖縄・奄美では台風第25号などや湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、15日は大雨となった所もありました。

気温は、日本付近は西高東低の気圧配置も一時的で、暖かい空気に覆われたため、全国的に平年を上回りました。